

項目	観点	教科書名					
		新しい算数(2・東書)	たのしい算数(4・大日本)	みんなと学ぶ 小学校 算数(11・学図)	小学算数[17・教出]	わくわく 算数(61・啓林館)	小学算数(116・日文)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるためにどのように配慮されているか。【知識及び技能】	・全学年において、吹き出しや補助発問を必要に応じて設けるなど、分かりやすく丁寧な問題解決の学習展開を通して、基礎的・基本的な概念や性質、技能が身に付き、それらの意味や原理なども理解できるように構成されている。 ・練習問題を解いた後、個人の進度に応じて巻末の「ほじゅうのもんだい」に進めるよう、指示が記載されている。 ・学習後の基礎的・基本的な概念や性質の理解、技能の維持・強化が図れるよう、単元と単元の間に復習の問題「おぼえているかな？」を設けている。	・すべての時間に学習のめあてを示され、本時の内容を明確に意識しながら学習を進められるようにしている。 ・単元間に適宜復習ページ「ふくしゅう」を設け、既習内容の確認ができるようになっている。 ・各時間の適用問題や、巻末の補充問題「プラスワン」が用意され、授業の進度や児童の習熟度に応じて選択的に使用できるようになっている。 ・前学年の内容を図などを使ってまとめた「〇年までのまとめ」や重点化された問題「チェックアンドトライ」を掲載し、知識・技能が振り返れるようになっている。 ・「算数たまてばこ」で、生活で活用できる問題や、生活の中にある算数を探す活動などがあり、さらに絵や写真も添付されより興味をもてるようになっている。	・各単元の導入のページには、学習内容に関連した身近な話題を提供しており、興味・関心を高めて導入を図れるようになっている。 ・単元末の問題には、「できるようになったこと」や「まなびをいかそう」があり、確認しながら技能の定着を図れるようになっている。 ・2年生以上には、日常生活で接する数や表、グラフについて取り上げ、それらを数理的に処理する場面である「数えたい、まとめたい」を設けている。	・導入に「どんな学習がはじまるのかな」が設けられている単元があり、学習につながる話題を提供している。 ・各単元末には「まとめ」が掲載され、学習した内容を数式や言葉で分かりやすくまとめられるようになっている。 ・単元間に復習ができる「ふくしゅう」と「ステップアップ算数」があり、技能定着のための練習や既習内容の確認ができるようになっている。 ・「身のまわりの算数」として、算数と日常的事象と結び付ける話題や問題を示している。	・新単元に入る前に「じゅんぴ」で練習することにより、既習事項の確認や技能の復習ができるように工夫されている。 ・単元間に「ふくしゅう」のページを設け、既習事項の確認を繰り返し行うことで、基礎的・基本的な知識や技能の定着が図れるようになっている。 ・単元や毎時間の学習後に「ふりかえろう」や「もっと練習」があり、これまでに学習したことを統合的・発展的に見直す機会が設けられている。 ・道具の使い方や作図の仕方などは、手順を細かく分割した連続写真や動画で提示し、基本的な知識や技能が身に付くようになっている。	・単元に入る前に「次の学習のために」があり、既習事項の確認ができるようになっている。 ・巻末の「しっかりチェック」で繰り返し練習することで、基礎的・基本的な知識・技能の習熟や定着が図れるようにしている。 ・つまづきやすい内容が含まれる単元には、「わかっているかな？」を設け、振り返りができるようにしている。 ・「つなげる算数」により、これまでに学んだことを統合的に見直すことで理解を深められるようになっている。
	(2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし総合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養うためにどのように配慮されているか。【思考力・判断力・表現力】	・「虫めがねのマーク」によって見方・考え方であることが分かり、まとめやすくしている。 ・各時のまとめで、見方・考え方を可視化し価値づけたり、既習との統合や発展的な考えを示したりしている。 ・2学年以上では、「つないでいこう算数の目」で、今後の学習につなげたり見方・考え方が身につけたりできるようになっている。	・「ひらめきアイテム」で、見方や考え方を発見したり活用したりしやすく、その考え方を記述することで、以後の学習に活用できるようになっている。 ・「まとめを考え方に焦点をあてた場合と知識・技能に焦点をあてた場合とに区別しており、学習の内容を確認しやすくしている。 ・「読み取る力をのばそう」で、資料から情報を読み取ることや、根拠をもって説明することに発展的に取り組めるようになっている。 ・「ふりかえろう」が設けてあり、考え方を改めて確認できるようになっている。	・身に付けさせたい考え方をキャラクターに例えて表記しており、どの考え方をを用いるか分かりやすくなっている。 ・「説明したいな」や「考えたいな」などを使得、筋道を立てて考えることや総合的・発展的に考察することに習熟できるようにしている。 ・「ふりかえろう つなげよう」で、学習した内容を統合的・発展的に見直せるようになっている。 ・巻頭に、思考力・判断力・表現力について具体的に表現されていて、それぞれの力について意識付けができるようになっている。	・「学びの手引き」では、算数で用いたい考え方を示したり既習事項を確認したりすることができるようになっている。 ・キャラクターの吹き出しにによって、発展的な内容が示され、思考を深めることができるようになっている。 ・単元末に図で内容を考える「ふりかえろう」により、考え方を整理したり振り返えったりすることができるようになっている。 ・問題発見・解決の過程を「はてな」「なるほど」「だったら」の吹き出しで示され、問いが連続するようになっている。	・問題解決に有効な考え方、図や表などのかき方が詳しく記述しており、それらを使って問題を解決していけるようになっている。 ・「類比」「帰納」「演繹」の考え方が吹き出しで表現れていて、問題解決の手がかりを得られるようになっている。 ・巻末の「わかりやすく説明しよう」により、筋道を立てて考える方法や表現する方法の具体が分かるようになっている。	・キャラクターの吹き出しから、問題解決の方法の見通しを立てたり、考え方を整理し、筋道を立てて考えたりできるようになっている。 ・「学び方ガイド」で、思考力・判断力・表現力が育成されるように具体的な活動のポイントが示され、切り取ってどこでも使えるようになっている。 ・「算数で使いたいことば・考え方」では、発表の例とともにその考え方が示されていて、表現力を高められるようになっている。
	(3) 数学的活動の楽しさや算数のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決をしようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養うためにどのように配慮がされているか。【学びに向かう力、人間性】	・キャラクターの吹き出しにより本時の学習を位置づけたり、既習の内容と統合したり、発展的に次の学習を想起したりする姿を具体的に示し、数学的活動の楽しさや数学のよさに着目できるようになっている。 ・単元最終ページやノートづくりのページには、次に学習してみたいことを想起する具体的な例を示し、内容を次の学習につなげられるようになっている。	・興味・関心を高める場面や解決の必要感をもたせる場面から、めあてを設定している。 ・発展的に考える場面や、学習をふり返って新しい問題を見いだす場面を示している。 ・4学年以上では、「数直線図のかき方」を示し、乗除演算決定の判断や理解を深めることができるよう工夫され、数直線を用いた考え方を重視して扱っている。 ・1～3学年では、学習したことを家庭や地域での生活にも生かすように「おうちで算数」を設けている。 ・「ふくろう先生なるほど算数教室」では、算数が社会で生かされている事例を取り上げ、算数への興味・関心を一層高められるようにしている。	・めあてを身近な生活場面や適用の場面から見出し、数理的な処理のよさを生活の中で感じられるようにしている。 ・日常の事象から問題を見つけ、協働的に解決していくを通して、数学のよさに気付き、さらに活用することに意義を感じることができる内容になっている。	・単元の導入「どんな学習がはじまるかな？」では、活動を最初に設定することで、主体的な学びを引き出し、目的意識をもって数学的活動に取り組めるようになっている。 ・「学んだことを使おう」を設けてあり、学習したことを生かして問題を解決できるようになったことを実感できるようになっている。 ・単元のまとめを4コマ漫画で掲載したり、□に数字や言葉を記入したりしながら、単元全体を振り返ることができるようになっている。	・多様な考え方を求める場面や話し合いも必要になることから、予め方法や手順について巻頭に「わくわく算数学習」として具体的に示している。 ・単元間の「みらいへのつばさ」「どんな計算になるのかな」「やってみよう」「さがしてみよう」などで、日常生活に算数の知識・技能を活用する場面が設定されている。 ・単元末の「ふりかえろう」によって、算数のよさを感じ、進んで活用しようとする意欲や態度が育成できるようになっている。	・身近な生活場面から問題を見つけ、数理的な処理のよさを感じられるようにしている。 ・算数を実際の生活場面と結びつけていく数学的活動が取り入れられ、生活の中で身近なものとして感じられるようにしている。 ・2学年以降の巻末に、話し合いや振り返りの観点が明示しており、学習の進め方が確認できるようにしている。 ・他教科や日常生活とも結びつけた問題を取り上げ、学びの幅を広げるようになっている。

2 内容の程度 及び取り扱い について	(1)算数における数学的な見方・考え方を働かせるために、どのような工夫が見られるか。	・見方・考え方を扱う場面の補助発問とキャラクターの吹き出しに「虫めがねマーク」を付け、見方・考え方であることを明示している。 ・「つないでいこう算数の目」で、見方・考え方を振り返ることができるようにしている。また、「算数マイノートを学習に生かそう」において学習過程で働かせた見方・考え方の振り返りの例を示している。	・見方・考え方を「ひらめきアイテム」として明示している。学習の中で発見したアイテムは巻末シートに記録し、以後の学習で活用できるようになっていて、帰納的な考え方や演繹的な考え方など他教科の学習でも活用できる内容を取り上げている。 ・特に見方・考え方に焦点をあてたまとめを必要に応じて「発見考え方」として示し、働かせた内容を確認できるようにしている。	・「算数で見つけたい考え方のモンスター」のページを設け、見方・考え方の具体的な例を示しながら解説し、意識化して使えるようにしている。 ・各学年の冒頭に「○学年で見つけた考え方」を設けて、前の学年で身につけた見方・考え方が振り返ることができるようにしている。 ・問題解決の中でキャラクターの吹き出しを活用することによって、類推・演繹・帰納の考え方が区別して育成できるようになっている。	・見方・考え方を獲得したり、拡張したりする場面に、コラム「算数のミカタ」を設け、見方・考え方の例を示している。 ・第3学年以上の巻末には、前学年までの「算数のミカタ」の一覧を掲載し、繰り返し参照しながら、見方・考え方を活用できるようにしている。 ・低・中学年では、「筋道」「帰納」「類推」「演繹」、高学年では、「単純化」「一般化」「統合」「発展」の考え方について学年の発達段階を意識して取り上げている。	・解決の見通しをもったり、その過程を振り返ったりして児童が主体的に学習を進められるように、学習のめあてとまとめが設定されている。 ・めあてにつながる考え方が、「学びのめばえ」として強調されている。 ・単元導入段階では、日常生活や既習の学習と関連付けて、児童自らが課題意識や見通しをもって学習に取り組める場面「たんげんとびら」が設けられている。	・結果や方法の見通しを立てたり、考えたことを話し合ったりするための着眼点を「カギマーク」やキャラクターの吹き出しで示している。 ・内容によって問題を解決するための多様な、見方・考え方と解決の方向性を示し、自分の考えをまとめたり問題解決の見通しを立てたりすることができるようにしている。
	(2)主体的・対話的で深い学びの実現のためにどのような工夫が見られるか。	・2学年から「学びのとびら」で学習の流れを具体的に示し、主体的・対話的な問題解決の過程を知ってから学習に入れるようになっている。 ・2学年から全単元において、単元導入の場面では対話を通して単元全体のめあてを見だし、単元末では単元の学習を対話を通して振り返る活動を示すなど、対話重視の構成になっている。	・巻頭の「算数まなびナビ」において、問題解決型の学習の流れと、ペア・グループ学習を含めた対話的な学びの方法が示されている。 ・「じっくり深く学び合おう！」では、問題解決学習の流れをイラストを用いて具体的に示している。特に、単元によっては授業の流れや活動の様子を実際の授業に準じて写真で示し、授業の展開をより具体的にイメージできるようにしている。	・めあてが、自然に見い出せるように、疑問や話し合いの中から取り上げていく構成になっていて、主体的な学習が確保されやすくなっている。 ・他者との対話が想定される場面で、2人または4人で話し合っているイラストが示しており、場面がイメージしやすいように配慮されている。 ・単元末に4種類の特設ページがあり、これまでに学習した内容を領域ごとにまとめて統合的に捉えたり、そこから生まれる新たな疑問を次への学習のきっかけとしたりすることができるようになっている。	・問題発見と解決の過程を「はてな?」「なるほど!」「だったら!？」の吹き出しで示し、問いの連続によって主体的に学習を進められるようになっている。 ・「学びのマップ」に学習内容の系統性を示し、既習内容と関連させながら自分で学習を進められるようにしている。 ・「学びを深める問い??」が用意され、対話的な学び方を通して、見方・考え方を深められるようになっている。	・単元の導入では、日常の事象や既習事項から問題を見いだすような場面になっていて、問題解決を通して理解が深まっていくように構成されている。 ・「学びをいかそうやってみよう」では、既習事項を他の単元や日常生活に生かすことで、算数の有用性を実感できるようにしている。	・各学年で、表現し伝え合う活動を取り上げており、見通しや見積もりといった考えを学習の展開にそって示している。 ・発表の仕方や話し合いの視点をキャラクターの吹き出しで具体的に示し、問題解決の方向性を示している。
	(3)算数科の特質に応じた言語活動の充実に向けて、どのような工夫が見られるか。	・巻末の「考える力をのぼそう」では、線分図や表を用いて説明する例を取り上げ、数学的な表現を活用する力が身につくようになっている。	・巻頭の「算数まなびナビ」があり、授業での言語活動を具体的に示している。 ・「読み取る力のぼそう」で、文章や図、グラフを読み取る力や読み取ったことから考えたことを表現する力を育成できるような場面が設定されている。 ・各単元に「学び合おう」や「ふりかえろう」を設け、記述の例が具体的に示され、表現しやすくなっている。	・問題の脇に「話し合いたいな」という表記しており、言語活動の方向性が示されている。 ・「かつどう!!」「アクティブ!!」が設けてあり、協働的な学習ができるようにしてある。	・巻頭の「学びの手引き」で数学的な考え方を引き出す言葉を整理し、数学的な見方・考え方と言葉を関連付けて表現できるようになっている。 ・「学びを深める問い??」で思考を深めることで、言語活動を促している。	・巻末の算数資料集の「わかりやすく説明しよう」で、考えを伝えるための説明の仕方を示し、筋道を立てて説明するために必要な表現力が育成できるようになっている。	・「算数で使いたいことば・考え方」で、言葉や考え方の具体を示し、考えを伝えるための表現力が育成できるようになっている。 ・「よみとろうあらわそう」で、図を使って表現できる例が示されている。
3 構成・配列・分量	(1) 単元の構成には、どのような特色があるか。	・各単元の導入の前に既習の内容を振り返り、問題解決の見通しをもたせられるようになっている。 ・1時間ごとに学習のめあてが示され、何を解決していくのが分かるようになっている。 ・本文、単元末の練習問題は、本文の例題と同程度の難易度で構成されている。また、さらに習熟が必要な児童のために、巻末に「ほじゅうのもんだい」を設定している。	・単元の導入のページでは、児童自身が問題や疑問を見だし、主体的に学習に取り組めるような題材が示されている。 ・1時間ごとに学習のめあてが示され、何について何を解決していくのが分かるようになっている。 ・単元内の問題は、授業時間を考慮しながらも、知識・技能を定着させるために豊富に用意されている。加えて、巻末補充問題の「プラス・ワン」や「ふくろう先生」のなるほど算数教室」など、学校や学級の実態に応じて取り扱える内容が用意されている。	・導入では、ストーリーのあるイラストを用いて生活の場面から素材を提示するようにし、作業的・体験的な数学的活動も取り入れながら、めあてがつかめるようになっている。 ・計算の単元では、導入で学習してきた計算をまとめ、これから新しく学習する計算をめあてとして示している。 ・1時間ごとの学習の定着のために「確かめたいな」として問題を入れたり、巻末に「ほじゅう問題」を掲載することで、習熟できるようにするとともに、個々の進度や時間数によって取り扱えるようになっている。	・学習のまとめりごとに、「課題→ステップ→発表・話し合い→振り返り・まとめ→たしかめ練習」という展開で構成されている。解決の手がかりとなる既習事項を吹き出し等で示している。 ・単元の導入では、既習事項をスパイラルに重ね合わせ、新しい学習との差異に着目しやすくしている。 ・練習問題は、毎時の学習の定着・習熟に必要な内容で構成している。また、毎時の練習問題から、「ステップアップ算数」にリンクし、「きほんの問題」と「ジャンプ問題」に分けて、習熟度に応じて練習問題の量を調整できるようにしている。	・目次では、単元の内容と、それに関する前学年までの既習事項が示され、系統をふまえて学習内容が概観できるようになっている。 ・「みんなで学ぼう」というタイトルでめあてを示すことで、見通しをもって単元の学習に入れるように配慮されている。 ・時間毎にテーマとなる主問題、めあてとまとめ、練習問題を設定して、学習の流れがとらえやすいようになっている。 ・巻末には、「じゅんび」や「もっと練習」が設けられ、必要に応じて取り扱えるようになっている。	・単元前には、「次の学習のために」を設け、既習事項を確認してから、新しい学習が始められるようにしている。 ・巻末の「しっかりチェック」として、「本編の問題」や「直後の練習」を補完する内容が用意されている。 ・各単元では、「わかっているかな?」「たしかめポイント」などでつまずきの発見や能力の深化が図れるようにしている。 ・「★」マークにより、全国学力・学習状況調査等での、正解率の低かった内容が意識できるようになっている。
	(2) 単元や教材の配列や分量にはどのような特色があるか。	・計算単元の習熟を図るために、学期末や学年末の配置を避けているなど、学習時期を考慮した配列になっている。 ・巻末の補充問題では、基礎的な内容と発展的な内容がそれぞれ用意されている。	・学習内容の系統性、領域のバランス、他教科との連携、学習時期等を考慮し、単元が配列されている。 ・巻末や章末には、補充問題や練習問題が多く用意されている。	・領域や内容的なまとめに対応した単元の配列になっている。 ・巻末の補充問題は、習熟に応じて多く用意されている。	・既習事項を活用したり統合したりして、学習内容や見方・考え方を関連付けて学べるような配列になっている。 ・「ふくしゅう」が複数回あり、巻末に学年のまとめも用意されている。	・低学年では、児童の興味の持続性を考慮し、同じ領域の単元が連続しないように配列されている。 ・練習問題の活用状況や問題の習熟に応じて、巻末に補充問題が用意されている。	・低学年では単元の領域を分散的に、高学年では学習の効果や効率を考慮して系統的に配列している。 ・上下巻末に実生活に即した発展・活用問題や復習問題が用意されている。

4 表記・表現	(1)レイアウトや図、表、グラフなどの表現には、どのような工夫が見られるか。	・図、表、グラフの大きさのバランスがよく、見やすくレイアウトされている。 ・写真を多く使用し、実際の場面との関連を意識しやすいようにしている。 ・割合など、特に数量の関係の把握が難しい単元では、数量の関係が捉えやすくなるような絵図を用いている。 ・内容によっては見開き2ページで紙面を構成し、考え方などを比較しやすくしている。	・図、表、グラフの大きさのバランスがよく、見やすくレイアウトされている。 ・イラストや写真は、興味を高めたりたり問題をより理解させたりするように、実際の場面を想定したものになっている。 ・内容の区切りや相互の関係が分かりやすいレイアウトになっている。 ・表やグラフは、体力テストなど他教科との関連を図った内容が用いられている。 ・変化と関係の領域の表は、学年が上がるごとに空欄が増え、自ら表を作成していくことができるようにしている。	・広い紙面を活用してレイアウトにゆとりがあり、見やすくなっている。 ・親しみのあるイラストを多く使用し、内容の理解を助けたり解決の道具になるようにしたりしている。 ・実生活との関連を意識させるための写真を配し、作図の場面などでは使い方が具体的に分かるように連続写真を使っている。	・図、表、グラフの大きさのバランスがよく、見やすくレイアウトされている。 ・作業や体験的な活動の場面では、写真で動機付けをしたり、作図の場面などでは、連続写真を使っている。 ・思考や表現の手段として、ブロックやアレイ図(○の図)、テープ図(線分図)、数直線等を段階かつ系統的に配している。	・図、表、グラフの大きさのバランスがよく、見やすくレイアウトされている。 ・問題の理解や解決に役立つヒントになるように、挿絵が学年の発達段階を考慮して用いられている。 ・考え方に応じ、テープ図、線分図、関係図、数直線図、表など様々な図を用いて表現されている。	・図、表、グラフは、考え方や思考の流れによって大きめに見やすくレイアウトされている。 ・作業、体験などの活動では、実際に活動している場面や具体物に写真を多く用いている。
	(2)単位、マーク、用語、枠等の表記にはどのような工夫が見られるか。	・重要用語がひと目で分かるように太文字の使用に加え、波線が付いている。 ・本時の問題や学習のまとめを枠で囲み、重要項目に着目しやすくしている。 ・ノートに書き写しやすいデザインのシンブルな記号が採用されている。 ・単元末の練習問題に、15分を目安にした区切りのマークが付いている。 ・他教科との関連を特に意図した箇所をマークと教科名で明示している。 ・フォントはUD教科書体を用いて、見やすくしている。	・右上部に各単元名が示されている。 ・使用するキャラクターを一つにして、吹き出しで既習との相違や解決のヒント等を示し、分かりやすくしている。 ・重さの単位では、はかりに加えて帯の目盛りを教科書の上部に掲載することによって、重さの感覚を実感させている。 ・りんごマークやえんびつマークなど、マークが親しみやすいように用いられている。 ・フォントはUDフォントを用いて、見やすくしている。	・各時間の主課題となる四角の問題番号、1時間のめあてを示す枠囲み、書き込みの指示マーク、電卓利用のマークなど、教科書を活用するための手だてが示されている。 ・キャラクターを用いたマークによって、親しみやすくマークの意味の区別がつきやすくなっている。 ・数字は、文字より太い書体になっていて、文字との区別がつきやすくなっている。 ・フォントは硬筆体を基本にした独自のフォントを用いて、見やすくしている。	・学習活動が問題解決のどの部分が分かるように、問題解決のどの過程なのかをマークを使って示している。 ・めあてにつながる主体的な考えや気づきなどをマークで示し、考えやすくしている。 ・学習が問いの連続でつながるように、問題発見から解決に至るサイクルを3つのマークで分かりやすく示している。 ・フォントはUDフォントを用いて、見やすくしている。	・学習の内容や活動に応じて、キャラクターや数字、問題解決の用語など形式の異なったマークを用いて、学習の方向性を分かりやすくしている。 ・めあてにつながる主体的な考えや気づきなどをイメージできる同じマークで示し、考えやすくしている。 ・学習が連続でつながるように、問題発見から解決に至るサイクルを3つのマークで分かりやすく示している。 ・フォントはUDフォントを用いて、見やすくしている。	・用語や、学習を進める上で必要な説明については、本文と書体を変え、分かりやすくしている。 ・紙面の外を囲んでいる色調を変えることによって、その学習の意味が見てすぐ分かるようになっている。 ・フォントは教科書体を用いて、国語科との整合性を確保している。
5 体裁・使用上の便宜	装丁や使用上の便宜等については、どのように配慮されているか。	・1学年がスタートカリキュラムを意識したA4版とB5版の2分冊、2～5学年がB5版の2分冊、6学年がB5版の1冊である。 ・再生紙と植物油インキを使用している。 ・全学年で専用の軽量で丈夫な用紙で、重量を抑えている。 ・綴じ込み教材に、適度な厚みのある用紙や透過性のある用紙を用い、操作しやすくしている。 ・QRコードを掲載し、教科書の内容について理解が深められるコンテンツが閲覧できる。	・全学年ともB5版の1冊である。 ・環境に配慮した紙、植物油インキを使用している。 ・軽量で強度が高い用紙を使用しており、合本でも1冊の重量を抑えている。	・1～5学年がAB版の2分冊、6学年はAB5版1冊と中学校への接続を意識した別冊があり、他社より大きく見開く部分が多く取れる。 ・再生紙と植物油インキを使用している。 ・総ページ数を少なくし、重量を抑えている。 ・本が元まで開く柔軟性をもった製本になっている。 ・QRコードを掲載し、活動を支援するコンテンツが閲覧できる。	・2～4学年がB5版の2分冊、1・5・6学年がB5版の1冊である。 ・再生紙と植物油インキを使用している。 ・強度を維持しながら軽量の紙を使用し、重量を抑えている。	・2～4学年がB5版の2分冊、1・5・6学年がB5版の1冊である。 ・再生紙と植物油インキを使用している。 ・軽量の紙を使用し、重量を抑えている。 ・QRコードを掲載し、学習の参考になるコンテンツが閲覧できるようにしている。	・1～5学年がB5版の2分冊、6学年がB5版の1冊である。 ・再生紙と植物性インキを使用している。 ・破損しにくく軽量の紙を使用し、重量を抑えている。 ・折り込みは本文よりも紙質が厚く、操作しやすくなっている。